

令和3年度稲城市地域自立支援協議会（第2回）

〈議事録〉

日時：令和3年10月18日（月）

15時00分～17時00分

場所：地域振興プラザ 4階 大会議室

【出席者】

令和3年度稲城市地域自立支援協議会 委員名簿

役職	氏名	選出区分	組織名・役職等
会長	藏野 ともみ	学識経験者	大妻女子大学
副会長	山本 あおひ	福祉サービス事業者	社会福祉法人 正夢の会
	寺尾 和子	相談支援事業者	稲城市社会福祉協議会
	石川 哲	福祉サービス事業者	NPO わくわく
	高橋 俊豪	福祉サービス事業者	NPO 友遊クラブ
	糸川 須美	保健医療関係者	東京都南多摩保健所
	津野 由記子	保健医療関係者	島田療育センター
	青野 修平	教育・雇用関係者	社会福祉法人 正夢の会 地域支援局 相談支援部 部長
	池永 満寿美	教育・雇用関係者	都立多摩桜の丘学園
	進藤 直人	障害当事者団体	稲城市身体障害者福祉協会
	高野 玲子	障害当事者団体	稲城市精神障害者家族会
	狩野 和枝	稲城市民生児童委員協議会	民生児童委員

事務局 福祉部長：山田、障害福祉課長：飯塚、障害福祉課係長：眞下
障害福祉課支援担当係長：高波、障害福祉係：松浦
稲城市社会福祉協議会：山崎、マルシェいなぎ：原

*配付資料

- 資料1 令和3年度稲城市地域自立支援協議会 委員一覧
 - 資料2 令和3年度稲城市自立支援協議会（第1回）〈意見書まとめ〉
 - 資料3 令和3年度第2回子ども部会報告
 - 資料4 令和3年度対2回相談支援部会（稲城市障害者相談支援事業者連絡会）報告
 - 資料5 令和3年度第2回精神部会報告
 - 資料6 地域生活支援拠点等対象者届出関係（地域生活支援拠点相談機能の流れ、支援対象者の定義、稲城市支援対象者登録届、個人情報利用同意書、地域生活支援拠点アセスメントシート、稲城市地域生活支援拠点（相談）支援対象者リスト）
 - 資料7 地域生活支援拠点等届出事業所リスト
- 当日資料 事例報告

1 開会

2 第1回協議会意見書の意見紹介、質問回答 【資料2】

事務局より、第1回協議会意見書の意見や質問回答について読み上げを行った。

3 部会からの報告

① 子ども部会 【資料3】

令和3年9月30日に開催された令和3年度第2回子ども部会について報告を行った。

議題1：共有できる初回面談票の作成について

どこでも使える共通の書式や面談票があると良いということについて部会内で協議中。「ぼわー」の活用についても意見があった。

⇒議題1に対する協議会内での意見等

- ・「ぼわー」について現状うまく浸透していないため、より周知を図る必要がある。
- ・学校との連携や放デイ事業所等での活用方法について、より明確にして保護者も事業所も理解できるよう整えていくことが重要である。
- ・手当や年金の意見書を書く際には幼少期からの様子をさかのぼって書く必要がある。その際、「ぼわー」のように親が思い出せるきっかけとなる資料があるのは医療機関としては助かっている。

議題2：情報交換

おやこ包括支援センターについて事業説明。乳幼児健診、発達健診、妊婦面談、育児パッケージの配布等について、及び健診から療育機関へのつなぎについて流れを確認。また、健康課の事業であるきらきら学級（2歳児の経過観察のための教室）についての意見交換を行った。

⇒議題2に対する協議会内での意見等

- ・他療育施設の空きが少ない状況もあり、きらきら学級の対象年齢引き下げについて健康課が検討中である。

議題3：事務連絡

医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律について話した。

⇒議題3に対する協議会内での意見等

特になし。

② 相談支援部会 【資料4】

令和3年9月21日に開催された令和3年度第2回相談支援部会について報告を行った。

議題1：事業報告、連絡

社協、マルシェ双方に病院からの相談、就労に関する相談、地域包括からの連携依頼が増えている。ひきこもりや精神障害のケースも近年多くなっている。今後の事業予定については、社協では、ひきこ

もり家族会で講師を招いての講演会を予定。また、ひきこもりサポーター養成講座も第3回目が受付中。マルシェでは、高次脳機能障害について、支援者連絡会や家族会を始めたところ。また、普及啓発活動としてスポーツに関連したイベントを検討中である。

⇒議題1 に対する協議会内での意見等

特になし。

議題2：情報交換

就労継続支援B型について、個々の状況によっては短期間から始めていくが、一方でステップアップを目指していくということについて改めて確認を行った。また、計画相談における相談支援について、コロナ禍によりリスクが生じる方は電話や別の形でモニタリングを行っていたが、訪問により対面での実施が基本であることを改めて確認した。

⇒議題2 に対する協議会内での意見等

- ・訪問でない方法では目に見えて事業負担が増えたのか。
→モニタリングという点については、電話でのやり取りもコロナ禍においては効率的であったかと思う。一方で、実質の支援においては、外に出られなくなったり、通所作業所が人数を絞ったりしたため、利用者の生活上の課題は多かった印象である。

③ 精神部会 【資料5】

令和3年7月20日に開催された令和3年度第2回精神保健福祉連絡会について報告を行った。

議題：8050 問題について

初期介入が難しい場合は関係機関等が複数で関わり、どこかの関係機関が本人と繋がる支援が良いという結果になった。また、病院では入院から退院までのイメージ作りや、病院と地域の連携が大切であるという意見が上がった。次回は、退院から地域での生活について、支援機関の役割と連携の仕方、何が問題になるのかといった課題の抽出について検討していく。

⇒議題に対する協議会内での意見等

特になし。

4 地域生活支援拠点について（対象者登録制について、事業所の登録状況） 【資料6】

地域生活支援拠点における対象者登録制度について説明を行った。

⇒協議会内での意見等

- ・登録事業所や認定する方へ説明会等の予定はあるか。
→計画相談支援事業所に今後説明を行っていきたい。また、認定する方については未定であるが、実際に動いていく際には検討したい。
- ・対象者の定義について、「社会面での課題がある方」については、既に警察の生活安全課が介入している場合もあるが、情報共有しながら進めていくということか。
→はい。生活安全課は毎日見回りを行うのは難しく、また見つけて注意してもその人の生活を変えてい

くような支援は難しい。役割分担により、注意は警察、生活支援は障害のサービスで入ると言う形でうまく組合せながら今後も支援を行っていく。

- ・精神面により自傷他害がある方は、警察を呼んで 23 条とするかそうでないかの判断というのは誰が行うのか。

→明らかに 23 条の場合は強制的に入院してもらう。そうでなく警察が来たら大人しくなるような方は入院にはならない。警察から解放された後に入るところというのは地域の体制を整えれば形になっていくと思う。

- ・サービスの定期利用がない方や、必要だが支援拒否しているような方に対してどのようにアプローチしていくのかも考えていく必要がある。

→基本的には計画相談事業所や、市が一般相談委託を行っているマルシェか社協を通じてと考えているが、「普段の利用はないが万が一のために登録しませんか？」という話になると思う。

- ・精神障害でこの対象者定義に当てはまらない方もいるが、そういった方を少しでも救い上げるには地域包括ケアシステムを地域でどれだけ充実させられるかも重要である。

- ・定義には当てはまらないがふあんだから登録させてほしいというケースがあった場合、該当しないということになるか。

→障害福祉課で相談を受けている限りは、そういった不安がある方はほぼ該当している印象である。不安になるというのは、親が高齢等何かしらの理由があると思うので、きちんと聞き取りを行いたい。

- ・児童は含まれないか。

→含まれている市町村もある。地域という視点では欠かせないので、成人の方を整えつつ、児童の方も考えていきたい。

- ・個人情報利用同意書について、支援の拒否がある方が抵抗を感じないよう、配慮したものにする必要がある。

- ・民生委員に配布されている「要支援者名簿」とはリンクするか。

→災害時の援護者とは違う意味合いのためリンクしていない。

5 事例紹介

事務局より、個別ケースの事例報告を行った。

⇒協議会内での意見等

- ・事例とは別件だが、コロナ禍で虐待も増えている。また、ヤングケアラーの問題もある。そういった問題も自立支援協議会でピックアップしたり、地域生活支援拠点とどう結び付けていくか検討することが大切。支援者の連携を想像すると大変なことだろうなと感じている。今後もこういったケースがあれば報告してほしい。

- ・多くの関係機関と関わるとその分情報があり様々な手立てが可能だが、孤立してしまって何処とも関わりがなく家族も発信しない場合にどう支援していくかという課題もある。

→市役所にもしばしばそういった近隣の方からの相談が入っている。何かの機会があれば介入できるよう情報としては残している。

6 その他

- ・障害者週間について

まだテーマが絞り切れていないため、決まり次第連絡する。

- ・ B型作業所の工賃アップを目指して

わくわくのカレー・コラボいなぎのお弁当の受注販売と、職員の名刺印刷をお願いしている。東京都の事業で B 型作業所の共同受注というものがあり、今年は稲城も応募している。まだ具体的な受注は来ていないが、エイトピア工房に拠点となる倉庫を用意していただき少しずつ動いている。

以上